

共同研究報告

井上・三輪・福田・阿部の四名から成る初雁・久松班(仮称)は、至四年度に次の二つの作業を計画した。

一、昭和辛三・至三年度に当時の共同研究員(その初雁班)が分担執筆したした原稿の形式を統一し、編集する。

二、久松国男氏寄託本の中から何点かを選んで解題原稿を作り、久松本の本格的な解題を行う次年度に備える。

そして実際には一に大半の勢力を費した。すなわち、記述内容の順序や数字等の記載方式を再確認すると共に、各原稿にそれらの基準によって訂正したりその他必要な加筆を行ったりした。また、全体の構成を決定した上、各章の中での各項目の配列をも定め、各章の冒頭にはその部類に関する概説を置くことを決めて、分担執筆をも行なったが、その際は至二・至三年度のメンバーであった人達の労をもわずらわした。ここに深謝申上げる。

こうして数回の討議や分担作業によって初雁文庫の写本(書陵部本のように底本が知られているものの新写本を除く)一七二点の解題原稿計約四〇〇枚を整備し、目次・あとがき等を付して印刷に付すばかりに漕ぎつけた。

二に関しては、至四年度には四名で計二三点を解題する計画を立て、二月以降に実行の予定である。

至年度

井上宗雄 松田 修 片桐洋一 福田秀一 滝沢貞夫

伊井春樹 小町谷照彦 渡辺守邦 加藤定彦 島原泰雄

川村晃生 本田康雄 鈴木 淳 杉山重行 荻原千鶴

至年度 初雁班

片桐洋一 福田秀一 滝沢貞夫 伊井春樹 小町谷照彦

高田信敬 川村晃生 原岡文字

至年度

井上宗雄 福田秀一 三輪正胤 阿部好臣

※

共同研究は館の事業であって文献資料部の事業ではない。しかし解題に関しては、たまたま写本福田秀一、版本松田修が発議し事務担当したので、文献資料部教官参加事業として報告することとした。

当館は、設置の趣旨からも共同研究の実施が期待されていたが、至十二

年来、国文学文献資料の解題研究を当面のテーマとし、五三年度は初雁文庫を対象としてとり上げた。五三年度には「国文学研究資料館共同研究委員会」が設置され、館内館外の委員を委嘱し、以後、共同研究の計画ならびに実施、共同研究員の選考に関することは今後、この委員会の審議によることになった。

五三年度からは写本班と共に版本における解題研究を考えるグループ（仮称版本班）が設置され、版本（俳書に限定）解題のためのマニュアルを論議した。

五四年度においては、俳書班は対象を酒田市立光丘図書館蔵俳書に限定、解題作業の実施をはじめた。実際作業を進行するにつれ、一旦決定したはずのマニュアルもゆれ動き、俳書とは何か、解題とは何かの本質論につねに帰りつつ、作業を続けてきた。来五五年度には解題の文章定着化を完成する予定である。

五三年度俳諧班

館内 松田 修 渡辺守邦 岡 雅彦 内田保広

館外 森川 昭 尾形 仵 加藤定彦 谷地快一

五四年度俳諧班

館内 松田 修 岡 雅彦 渡辺守邦 島原泰雄

和田博通

館外 尾形 仵 森川 昭 雲英末雄 加藤定彦

中野沙恵 池田俊朗

五三年度には「国文学研究資料館共同研究委員会」が設置され、館内館外の委員を委嘱し、以後、共同研究の計画ならびに実施、共同研究員の選考に関することは爾後、この委員会の審議によることになった。